
いぬ山と山ねこ

いぬ山ねこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いぬ山と山ねこ

【Nコード】

N3318A

【作者名】

いぬ山ねこ

【あらすじ】

いぬ山はハッピーエンドを司るジキルな人格・・・山ねこはバットエンド？（悲しい結末etc・・・）を司るハイドな人格・・・一話完結、短篇連作の形式のお話【世にも奇妙な物語】か（ライトノベル）【キノの旅】みたいな感じです！なので世界観が話ごとにまったく違います・・・（飽きっぱさがモロばれ（汗））。

第1話：いぬ山その1（前書き）

m 基本、最後の才子重視で書くんで最後まで読んでください m（――）

第1話：いぬ山その1

プロローグ【いぬ山】

オレはルパン三世に憧れて泥棒になった。

緑のスーツ（宮崎カラー）とワルサーP38（ブラフ用のモデルガン）をトレードマークに

馬鹿みたいに漢オトコの美学をつらぬいて
そして・・

悪党に捕まった・・・。

きつと趣味的に殺されるんだって諦めかけたとき助けてくれた人がいた。

オレ達の業界の生きた伝説

怪盗紳士の称号をもつ

ダニー・オーシャン

本家本元のルパンの称号をもつ男に救ってもらったんだ感動的だった・・・。

それだけでも奇跡なのに

彼はオレに殺し文句を言ってくれた。

「お前は見込みがあるから俺と夢を見ないか？」

って、だからオレはオーシャンさんの最初で最後のたった一人の弟子になったんだ・・・。

不法侵入Lv∞

外は幸先がよく雪が降っていた。

きつと、彼の痕跡を覆い隠してくれるだろう・・・

「オレは師匠の夢を受け継ぐ伝説の怪盗紳士オーシャンのたった一つの黒星を・・・。」

弟子の誇りにかけて攻略してみせる・・・」

彼はそう、決意すると
要塞の様な白亜の御殿を見上げた・・・。

愛車の旧式ベンツから厳かに降りる・・・

オーシャンから名前を受け継いだ彼の行動は洗練されていた、猫の様に鋭敏で無駄が無い

彼の理想としたルパン三世の様にスマートだった、トレードマークの赤服がマイナスポイントだったが技術がそれを超越していた。青い部屋の護衛の目を絶妙のタイミングですりぬける

それもひとえに、オーシャンの夢が光り輝いていたからだろう。オーシャンは多くに慕われていた

だから、彼の夢に賛同してくれる内通者が、こと細かに情報を提供してくれる。

しかし、この御殿のセキュリティは世界最高峰、神がかり的な技術がなければすぐさまアウト・・・

存在を気づかれたら即ゲームオーバー

シビアだが彼は信念のために危険な綱渡りをする。

・・・・・・

・・・・

・・

・

なんどもヒヤヒヤする場面をきりぬけ彼は賭けに勝った。

きつと彼は運命に愛されていたのだろう・・・

目的の寝室に辿り着いた

米国大統領の子供が眠る寝室に・・・。

スヤスヤと眠る可愛い寝顔を見て、白ヒゲの彼は優しく微笑むとプレゼントを枕元に置く。

「メリークリスマス」

小声で呟いた・・・

・
・
・

ただの自己満足かもしれないが彼は誇らしさで胸が一杯だった。

終わり

第1話：いぬ山その1（後書き）

多分、バレたと思いますがいぬ山ねこは現実主義者です・・・ファ
ンタジーが本のジャンルで一番好きなので結構、困ってます（T|
T）

第2話：山ねこの1

オオカミ少年？

【山ねこ】

僕はアノヒトが憎くて憎くてしかたがないんです・・・

アノヒトは僕を殺そうとした

死にたくなかった僕を殺そうとした・・・

だから嫌いなんです

だからアノヒトが戦争に行ったとき心の底から喜びがこみあげてきました

アノヒトの大好きな人殺しができるんですよ

アノヒトは要領のイイ秀才だから殺しに夢中になって・・・

きつと・・・きつと生きて帰る事でしよう・・・

だから僕は毎日、神様にツバをはくんです

アノヒトが

死にます様につて・・・

僕はアノヒトを憎んでいます

些細な感情なので

きつとすぐに忘れてしまう事でしょう。

だから時々、星に呪いをこめ神様にツバをはきます。

だから僕は戦争が好きです・・・

・

・

自分の性別まで偽るほど嘘つきな彼女のいじらしくて悲しいある愛の話・・・

つづく ↑

シュバアイツァー博士の考察

オカミ少年病、対義語病、または皮肉をこめ、サトラレ症候群とも呼ばれる奇病……。

今のところ発症したのは彼女だけ。

私は最初、彼女の狂言だと思っていた。

なぜならば、脳の言語中枢になんの欠陥もみられないからだ、医学的には彼女は正常、まったくの健康体以外のなにものでもない。試しに嘘発見機で彼女の言動をテストしてみた。

それで分かった事は彼女は嘘をつく時に一般的な人と同じ正常な反応をしめす事だった、つまり彼女にとって嘘こそが真実。私はこう思った možい

幼いころに意味を騙されて言葉を教わったのではないかとそれならば納得がいく

しかし現実には彼女の両親は立派で厳格な教師でありなによりも、幼い彼女は普通に言語を操れたとの証言が信憑性があるほど得られた。

彼女いわく（解読した）、真実の言葉を頭の中で思ったとしても口から出る言葉は嘘に変換されてしまい、ならばあえて嘘を言おうとしてもその場合はそのままだと涙ながらに言う。

つまり本当に憎い相手には賛辞を

愛しい相手には暴言を

悪魔の呪い……

しかし、彼女を理解さえしていれば彼女ほどの正直者は居ないだろう。

だから彼女は皮肉めいたトゥルーの愛称で呼ばれる……

実は私はほんの少しだけ彼女が羨ましい……

私は嘘と真実の曖昧な世界の住人だから……

終わり

第3話：いぬ山ねこその1（前書き）

実は今、構想中の長編用のファンタジーの登場人物のプロトタイプ
だったりします・・ケータイで書くのってシンドイです（T|T）
燃えつきて灰になりました・・・

第3話：いぬ山ねこその1

英雄たちの伝説

【いぬ山ねこ】

その世界はRPGの様な完璧な英雄達によって救われた・・
事実があまりにも伝説じみていたから、まだ伝記程度しか時間が経過していないのに神話あつかいされている

勇者○♂は魔王との戦いで自己犠牲の精神で戦死・・

魔法使い ♀ は勇者の死を悲しみ悲嘆のあまり食物がノドを通らず衰弱して死亡・・・

劍豪□♂は崩壊した大地を嘆き、世界を緑でうめつくすために尽力し、数十年後老衰のため死亡・・・

これが今を生きる住人達を知る彼らの全て……

客觀的視点が生み出した偶像……。

では？真実は？

•
•
•
•
•
•

•
•
•
•

⋮

突然、世界がセピア色に染まる……

映像表現でお馴染みの過去にさかのぼった時の手法だった……

魔法使い
♀
の場合

私はね・・・どうあがいたって自己中心的にしか行動できないし考えられない人間なんだ・・・

世界なんてどうでもいい……

自分さえ良ければ・

だから、戦っていたんだと思う。

私は。と□が恋愛感情うんぬん関係なしで好きだったんだ・

三人で馬鹿やってるのが楽しかったから・

その時の自分が一番輝いていたから

だから、たとえ。と□が悪だったとしても私はそれに喜んで加担しただろう

私にとって戦う事とは友情を深めるための手段にしかすぎず結果、世界が変わったとしても知ったこちゃない。

だから、私は。の居ない世界に何の魅力も感じない

世界が白黒に染まった・

だって三人が揃って初めて楽しいのだから・

ボケとツツコミと天然がそろわなきゃ、つまんないから・

・

世界に倦怠感を抱いた彼女の話

剣豪□♂の場合

俺はただ単純に最強に憧れていた・

誰だって何かで一番になりたいと思うだろ？

俺は剣を超越した戦闘での世界最強をめざしたんだ

だから、正義って名の大義名分は、かなり都合がよかった

殺しても殺しても殺しても誰も罰しないし皆、喜ぶ

需要と供給が成立するから・

誰かが結果的に得をするから・

だから。と と行動を共にした。

悪ほど武装したがるものだし力を欲するから・

だけど、そのうち気付いた悪ほど数に頼り

正義ほど個人に力が集中してる事を・

つまり、今世界で個人最強に一番近いのは勇者。だって事だ・

あいつは典型的な主人公体質だから成長をまっつて挑戦するはずだったのに．．

○の野郎、死にやがった．．．

魔王と勇者が死んだ以上、繰り上げで俺が最強になっちまった．．勝ち逃げされた気分だ．．自分の夢が馬鹿馬鹿しく思えてきた．．だから、もう剣は捨てるよ．．

新世代の強者が育つ環境はもう無い．．

平和が人間を弱くする．．．

もし、育ったとしても時間が掛かるだろ．．

俺の全盛期は今なんだ．．興醒めだよ．．

つまんねーから暇つぶしで技と気構えの本でも書くよ【五輪の書】
って題名んだけど売れっかな？

隠居したら定番のガーデニングでもして余生をおくろっ．．

．．．．

目標を失った彼の話

勇者○♂の場合

僕はタダの偽善者です．．

自分を偽善者だって肯定する奴はどうあがいたって偽悪者じゃないでしょう？

僕は誰かに誉めらるのが好きだったし快感だった．．だから、戦ったんです

老若男女とわず全ての人々に誉め讃えられるためには正義の味方じやなきゃならない．．．

魔族ほど都合のいい敵はいませんでしたよ

人間同士の戦いだと誰かに恨まれますからね

その点、種族間での争いほど都合のいい正義はありません

人間社会が僕の生きる世界の全て、ですからね

だから僕は人間の心理を研究したんです

いかに愛される勇者になれるか・

どうすれば歴史に名を残す事ができるか・

それを思案して導きだした答えが

わざわざザコ相手に苦戦したフリをしたり

あわよくば命を賭けて敗戦の演技までしました・

僕はあまりにも才能に恵まれた人間でしたからね

先天的に強かったんですよ自分で嫌になるくらい

だって大衆が望む勇者って段階を踏んで強くなる人の事でしょ？

最初から強かったら冒険もありがたみもない・

だから演じたんです

統計的に分析して理想的な勇者を

全て打算と計画からくる演出だったんですよ

最後に僕は究極の勇者の生きざまを体現します

魔王と心中するんです人類の守護者として

20億人のために自分の命を捧げた希代の英雄としてね・

僕は死ぬけど僕は誰かのなかで永遠に生き続ける

不老不死になれる

幼い頃、胸踊らせて読んだ物語の英雄達の仲間になれるんです

誇らしさで胸が一杯です！・

・
・
・

功名心にとりつかれた彼の話・

天国と地獄の狭間にて

タバコの煙の様な胡散臭い紫の霧が漂う場所

なんの因果か地球時間に換算して数時間前三人は再会した。

「つまり、なにか？お前って計算だかい究極の偽善者って事か！」

剣豪□がニヤニヤしながら言った

「キミこそ変態戦闘狂だったんだね！」

勇者。が満面の笑みで言った

「じゃあ、まともだったのは私だけか・

はー(タメ息) 変人どもめ地獄に落ちろ！」

魔法使い が目を潤ませなけば呆れた口調で言った

「おめーこそ変人だろ！」

淋しくて死ぬなんて常軌をいつしてるぞ！」

剣豪は優しい微笑みをたたえている

「ほっぺにチュとしてなぐさめてあげようか？」

真面目な顔で勇者が問い掛ける

「お前らは・・・

ほんとーに！馬鹿でマヌケで変人で奇人だな！」

汚い罵りのはずなのに魔法使いは聖母ほども優しい顔で涙を流しながら言う

「ところで僕はどうにも納得がいかないんだけど

だって動機は不純だったけどさ結果的に世界やら人類やらを救ったのになんで天国行けないの？」

しかめつっらの勇者がボヤいた

「なんでおめーはいつも話を唐突に脱線させんだジコチューが空気よめよ・・・

だけど、俺も思ってた

だってさっき大量虐殺のアドルフ・ヒトラー見たし・・・」

眉間にシワをよせ剣豪は考えこむ

ズスつと鼻水をすすりながら魔法使いが答える

「□は最近来たばっかだからイイとして、○は私よりも先にココに来たんだろ！推測くらい出来ないのか？私が思うに動機と結果のトータルバランスで行き先が決まるんだと思う

だからきつと私達みたいな判断の難しい奴らは保留あつかいで放置なんじゃないかな？」

「ああ納得！」

剣豪がうなずく

「だったとしても僕は納得がいかないな・

天国に行けるって信じてたから死んだのに

クソ・・癪にさわる・

ねえ皆で神様に喧嘩売らない？

本物の神話を紡がない？」

「変人キター！（笑い）

神様って崇められるくらいなんだからきつと強いんだろ？

俺は願ったりだぜ！」

なぜだか剣豪の姿が若返った・・

「いいねー（笑い）

きつと、きつと楽しい旅になるぞ！

今まで暇つぶしに神技魔法の研究してたからラグナロク級の戦争おこせるよ！」

なぜだか、彼女の痩せ細った体が血の気をおび

ふつくらと健康的な美人に戻った

「じゃー行きますか僕の愛しい変人さん達！」

目を純真無垢な子供の様キラキラ輝かせ

勇者が楽しそうに言った

・・・・・

・・・

いぬ山ねこは青ざめた顔で主人公達を盗み見ていた・・・・・

「やべー・・・（汗）」

第3話・いぬ山ねこその1（後書き）

読んでくれてありがとうございました（＾Ｏ＾）／

第4話：いぬ山その2（前書き）

何を考えて書いたのか・・自分でも分かりません・・ただ一つ言える事は誤字脱字があっても勘弁してください・・m（――）m

第4話：いぬ山その2

英雄達の神話 第108話

【いぬ山】

前回までのあらすじ

陰険で卑怯な大魔王（いぬ山ねこ）は作者特権を濫用し

「アッシのアタマの中には無限の世界が広がってるのさ！」

を合い言葉にまたまたどこぞの異世界にトンズラ・・・

ポケモンのロケット団じゃあるまし、もうそのセリフ飽きた・・・

と勇者一行は内心思っていたが作者に書いてもらえないと話が進まないのでは

奥歯を噛み締めながらその屈辱にたえた・・・

勇者。は魔法使い とラブラブモードだったのが

第103話で作者の自分勝手な閃き（映画【スターウォーズ】のレイラ姫とルークは実は血の繋がった兄弟だったオチ）を実行され・・・
トラウマになってしまい再起不能かと思われたが

顔がパンで、できた胡散臭い謎の生物にアンパンを同情からほどこしてもらい

勇気リンリン！と復活し

「今は正義なんてどうでもいい僕はリベンジャーだ
ブツ殺す・・・ってか三枚におろす・・・」

と青筋をたて無理矢理笑顔をつくって顔をピクピクさせながら作者への復讐を誓う・・・

魔法使い は韓流ドラマバりに恋多き女・・・

今回のお相手は

「ボクはフェミニストだからネ！」

が口癖の日本人なのになぜか、（ハリウッドスター好感度NO1【ジョニー・デップ】にソックリな結婚詐欺師（整形）を逆にペテンにかけるタメに思案をねっている。

剣豪□は最近まで（漫画）【ジョジョの奇妙な冒険】にはまってスタンド能力を発現するタメに旅をしていたが
石の矢が薄汚れていて興醒め・・・

飽きたらしく・・・

やっぱ、時代はガンダムの遺伝子を受け継ぐリアルロボットだよね！
つと意味不明な言葉をツブヤキ超古代文明伝説のラピュタを探す旅にでた・・・

ちなみに発見できる予定だが

「天空の城かよ！」

つてツツコんでへこむ・・・

作者（いぬ山ねこ）はアツシは何が書きたかったのでしょうか？
つと疑問に思い・・・

今まで懐疑的だった宗教に救いをもとめ懺悔の日々をおくる・・・
しかし数十年後実は（ライトノベル）【キノの旅】の後書きに触発
されて書いたんだと気付き豹変・・・

その豹変ぶりに今まで優しい神父さんだと思っていた近所の子供達
は泣き叫び

「もう・・・大人なんて信じない・・・。」

とツブヤキ消息をたつ・・・。

数年後、ゴット・ファーマー（ビト・コルネオーネ）と呼ばれるギ
ヤングのボスが誕生・・・

いぬ山ねこはまさか、あの時の子供だとは思わず

いつもコビへつらっている・・・

・・・

・

飽きたので終了！

第4話：いぬ山その2（後書き）

お疲れさまでした！脳内リフレッシュに、いぬ山ねこはジブリ映画を推奨しますm（――）m著作権って大丈夫なんでしょうか？不安で夜も眠れません・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3318a/>

いぬ山と山ねこ

2010年10月28日06時47分発行